

【老舗の神髄】 第12回

富田染工芸

text：内山真李

伝統の江戸小紋を未来につなぐ
SARAKICHI サラキチ

遠目には無地なのに、そばで見ると細かな柄が連なっている。江戸っ子たちから人気を博した小粋な江戸小紋の魅力を、ネクタイやポケットチーフ、スカーフ、傘や革小物、アクセサリといった幅広いアイテムとして現代によみがえらせるのが「SARAKICHI (さらきち)」だ。

「SARAKICHI (さらきち)」は、創業から140年以上の歴史とともに着物を染め続ける、富田染工芸が展開するファッション小物のブランド。着物の歴史と伝統技術を基軸に、モダンで新しいデザインを生み出し、進化を続けている。性別を問わず幅広い年齢層に受け入れられ、近年は「アンビエンテ」(フランクフルト)や「メゾン・エ・オブジェ」(パリ)といった海外展示会でも発表を行うなど、高い評価を得ている。ブランド名に冠した「さらきち」とは、初代の屋号「更紗屋吉兵衛」にちなんだものだ。



普段のスーツにスペシャル感を演出する小紋のネクタイ。裏地には別柄が染められている。ヌメ革小物もある



左右、裏表で柄が異なり、畳み方次第で表情を変えるストール



江戸小紋の表現の最高峰でもある両面染めを施した日傘。差した内側からは海の中にいる気分！ 裏(かざね)の色目をイメージしている

同社の歴史をひもといてみよう。1882(明治15)年に初代・富田吉兵衛が東京・浅草で創業。やがてまちの発展とともに神田川の汚れが目立つようになると、染色に適した水を求めて上流へと移っていく。1914(大正3)年には現在の早稲田・面影橋たもとに移転。以降、神田川と支流の妙正寺川流域には染色関連業者が集まり、染色は新宿の地場産業として栄えるように。現在も同社ら関連業者が一体になって、江戸の伝統を守り続けている。

一時は130人の職人を抱えるにぎわいだった富田染工芸も、時代の流れにはあがえず苦戦するようになる。洋服の台頭で、60年代頃から染色業界全体が急激な右肩下がりになっていった。「普段着が和服から洋服へと変化したために、着物自体の需要がなくなりました。しかし、代々続けてきたのを私で辞めるわけにはいきません。とにかく頑張ろうと、いろいろなことをやってきました」。そう話すのは、今回取材に応じた富田染工芸・富田篤会長。現在は子息である富田高史社長が六代目を継いでいる。

2012年に「SARAKICHI」が誕生したきっかけはポケットチーフだった。



いわれ小紋「飛び鶴」と「投網」を合わせて「千年の命をわがものに」と解く。ポケットチーフ

東京都美術館がリニューアルオープンした際の「TOKYO CRAFTS & DESIGN2012」プロジェクトという企画で、東京の伝統工芸と、伝統を現



武士の袴(かみしも)に取り入れられた江戸小紋。多彩な柄にはそれぞれに厄除けや招福、子孫繁栄などの思いが込められている

代に活かそうとするデザイナーが協働して、新しい伝統工芸品をつくるコンクールが開催された。そこで富田染工芸の「小紋チーフ 飛び鶴と投網」(南出優子氏デザイン)は、約300点の応募作品のうち、最優秀作の10点に選ばれた。これが契機となり、ブランド「SARAKICHI」を立ち上げたのだ。

その「SARAKICHI」、実はパリでも販売されている。ルーブル美術館のほど近くに、富田染工芸が展開する「キモノ悉皆屋」受付カウンターがあり、ここで一部商品を扱っているのだ。この「キモノ悉皆屋」も同社が未来に伝統を残す試みのひとつ。その名の通り、クリーニングからシミ抜き、染め替え、防水加工に至るまで、着物のことならあらゆる相談に応じる。専門の職人のネットワークがものを言うメンテナンスであり、着物の“知”が集結していると言っても過言ではない。それにしても、なぜ、パリで？

「パリではお茶や生け花などの日本文化が盛んで、フランス人も着物をお召しになるのです。汚した時は大変お困りでしょうから、着物についての困りごと全てを承るために、パリに受付を構えました」と話す富田会長。預かった着物は、日本で職人が丁寧に仕事を施してパリに戻される仕組みだ。「世界のパリはやはりナンバーワン。そこに outlet していることは、海外のエスタブリッシュな方々からの信頼にもつながります」と手応えを口にする。

ところで同社では、江戸小紋や江戸更紗の染色に用いる伊勢型紙(加工した和紙に、職人が彫刻刀で、着物の文様や図柄を手彫りしたもの)を約12万枚収蔵している。しかし型紙は消耗品で、使っているうちに破けてしまい、そうなると江戸伝来の美しい柄も破棄するよりほかにない。「貴重な日本の伝

統文様が損なわれるようでもったいない」と感じた富田会長は、収蔵する型紙デザインを電子データ化し、図録としてまとめた『富田コレクションⅠ・Ⅱ』を出版した。多くの人の目に触れ、永遠の命を得たかのような江戸の伝統文様。これも技術を未来につなぐ試みのひとつだ。



左/1911(明治44)年に二代目が取得した「彩色写絵版(さいしょくうつしえばん)」特許証。シルクスクリーンの原型と考えられる
右/収蔵する伊勢型紙のうち140種類をまとめた、2冊目の図録。表紙は「秋草柄」

「SARAKICHI」の展開はさらに広がり、アートタイルのほか、木材に染めを施して建材にも活用できるよう進化し続けている。「素材は違えど、全て着物を染める技法と同じ。もしもこの先、着物が絶えたとしても、この技法は後世に残ることでしょう。日頃から知を集結させているからこそ、着物が復活した時には即座に対応できる。これがわれわれの最大の強みです」と、富田会長は笑う。

「私は五代目として、アイデアで会社を支えました。後は息子が六代目として道を究めてくれることでしょう。楽しんでやっていってほしいですね」。伝統の江戸小紋は、次代に、そして未来に受け継がれていく。



工房は予約制で見学も可能(無料)。江戸小紋の染めの体験コース(有料)は外国人観光客にも人気

きらぼし 脱炭素 応援ローン

対象企業 東京都環境局の「地球温暖化対策報告書制度」に基づく報告を、今年度または前年度行っている法人または個人事業者

※本商品は1債権のみ利用可能(完済後の再度の利用は可能です)

CO₂削減に対する積極的な取組みをアピール!

※本商品については、審査の上で実行するため、ご希望に添えない場合があります。
※お申込み・ご相談は、お近くの窓口にお問い合わせください。

商品名	きらぼし脱炭素応援ローン
お使いみち	事業資金(運転資金・設備資金)
ご融資金額	当行所定の審査によります
金利種類	1年目：固定金利 2年目：変動金利 ※2年目以降に再度固定金利を選択することはできません
ご融資利率	当行所定の金利 ※但し、1年目については所定の融資利率より0.1%を優遇した固定金利を適用します ※優遇期間経過後は所定の変動金利が適用になります
ご融資形態	証書貸付
ご融資期間	運転資金：2年以上5年以内 設備資金：2年以上10年以内
ご返済方法	元金均等返済
担保・保証人	当行所定の審査によります
その他	本商品にてご融資実行後、きらぼし銀行ホームページ上に本商品利用企業として掲載します

商品詳細につきましては、ホームページをご覧ください。
<https://www.kiraboshibank.co.jp>

日本監査役協会

1974年設立。2024年5月に設立50周年を迎えました。
現在7,787社、9,670名が所属する、監査役等の実務支援団体です。

学ぶ・交流する・調べる・相談する すべてできます!

会員社数の推移

会員社の上場等の区分

監査役・監査委員・監査等委員のみなさま、ご入会はお済みでしょうか?

ご入会はこちらから
<https://www.kansa.or.jp/>
日本監査役協会 検索